

もも組 懇談会資料

事前のアンケートへのご協力ありがとうございました。

◎ 生活面について

- ・身の回りのこと、着替えや衣類を畳むこと、排泄など自分でできることが増え、上手になってきました。以前、着替えでは一人で脱げなかったり、畳めなかったりする時は一人で泣いていた子どもも、今では自ら保育士のもとに来て、「手伝って」と助けを求めるようになりました。
- ・一日の流れをしっかりと把握している子どもが増えてきたため、片付けや食事の時間など時計を見て、気が付いた子どもが全体に声掛けをしてくれることも増えました。
- ・排泄に関しては個人差が大きいので、日中はパンツで過ごし、お昼寝の時だけオムツをしたり、お昼寝の途中で一度起してトイレに連れて行ったり、パンツの上からオムツを履いたりなどその子に合わせて対応しています。
- ・食事ではお箸を使うようになりました。また食事の時の姿勢や座り方、お皿の置き方など子どもたちも少しずつ意識を持って行っていますので、ご家庭でもご協力お願いします。

◎ 友だちとの関わり

・進級した頃は一人遊びを楽しむ子どもが多かったですが8月頃から少しずつお友だちとの関わりが増え、今では「○○ちゃん、一緒に遊ぼう」と遊びに誘ったり、「○○君どこにいる？」とお友だちを気にしたりする姿が見られます。しかし、お友だちとの関わりが増えた分、遊びの共有がうまくいかず、「○○ちゃんが遊んでくれなかった」や「○○くんが作ったブロック壊した」などトラブルになることもあります。その時は、お互いの気持ちを聞き、寄り添いながら話を進めるようにしています。そして、お互いに相手の気持ちを考えられるように「どうしたらよかったかな？」と子どもに尋ねるようにしています。また、そういったトラブルがあった時はその子どもたちだけの出来事にせず、朝のお集りや帰りの会などで子どもとワーク(話し合い)をするようにしています。すると子どもたちも自分たちの思いや考えを伝えてくれます。そういった活動の積み重ねもあり、少しずつではありますが相手の気持ちを考えられるようになってきました。最近ではトラブルを周りで見ている子が話しを聞いたり、解決策を提案したりと、子どもたち自身で解決しようとする姿も見られます。これからも子どもたち同士の関わりをそばで見守っていききたいと思います。

◎ 遊び

・体を使って遊ぶことが大好きな子どもたち。お友だちと一緒に遊べる楽しさやルールを守る大切さを味わえるように「バクダンゲーム」「大根抜きゲーム」「お引越しゲーム」「ハンカチ落とし」「だるまさんが転んだ」「しっぽ取り」「いす取りゲーム」などたくさんゲーム遊びを積極的に取り入れてきました。「しっぽ取り」や「いす取りゲーム」では勝ち負けがあるため、勝って嬉しい、負けて悔しいなど気持ちを表現することが増えた子どもたち。勝てた子どもに対して、「○○チャンピオン」としてみんなの前で発表し、自信を持てるようにしています。また、負けてしまい、悔しくて泣いている子どもに対しては頑張りを認めながらゲーム遊びのコツを伝えたり、どうやったら次に上手にできるようになるかなど一緒に考えたりと次に繋がるよ

うに声かけを行っています。また、ゲーム遊びが苦手な子にもスポットが当たるようにルールの調整を行うなど配慮を行っています。

日によって「一人でゆっくり遊びたい」、「塗り絵やパズルをじっくりとやりたい」という子どももいるため、子どもたちのやりたい遊びを保證できるようにホール・保育室に分かれて遊ぶこともあります。「個」・「集団」のどちらの遊びも大切にしながら遊びの中でも心の成長を促せるように働きかけていきたいと思ひます。

前期の制作遊びや廃材遊びでは「先生やって」や「先生、〇〇作って」と保育士に頼ることが多かった子どもたちでしたが、今ではハサミやセロハンテープの使い方はもちろん、自分でイメージしたもの(キャラクターの着物の柄やパトカーなど)を様々なものを使い、形にできるようになりました。そうした中で失敗してぐちゃぐちゃになったセロハンテープが机に貼りっぱなしになっていたり、切りかすが床一面に落ちていたりすることもあります。まだまだ、そういったことが多くあるので、もも組のみんなでワーク(話し合い)を行いながら解決方法を考えていきたいと思ひます。

年明けからは数字や文字に興味を持てるようにトランプやかるたなどのカードゲームも始めました。

◎ 進級にむけて

・もも組ではお友だちに優しく接することができた、お着替えや片付けを頑張った、ゲーム遊びでチャンピオンになったなどなど、子ども一人ひとり「個」の頑張りを認め、自信に繋がるように「ちびっこ先生」を行ってきました。そして最近では「個」から「集団」へと意識が向けるように同じ机のお友だちとのお当番活動を始めました。お友だちと一緒に協力して一つの事柄を成し遂げる楽しさや達成感を味わえるようにしていきます。また、「かっこいいお兄さんになりたい」や「素敵なお姉さんになりたい」など憧れを持てるようにぶどう・すいか組との「異年齢交流」も行っています。朝のお集まりや帰りの会で「みんな何組さんになるんだっけ？」や「すいか組さんはどうやってお話聞いてた？」と子どもに尋ねると、足を揃えたり、背筋を伸ばしたりして姿勢を正す姿も見られます。話の聞き方や座り方など、刺激を受けているようです。ちびっこ先生や様々な行事の経験から子どもたちも自信が身に付き、一人でできることが増えてきました。「個」を大切にしながら「集団」を意識して、過ごしていきます。

◎ アンケートの中より・・・

成長したと感ずること

- ・語彙力が増えた。理解力がついた。自分から行動することが増えた。
- ・食事量が増えた。(手伝えば野菜も食べられるようになった)
- ・お手伝いを積極的にするようになった。
- ・お友だちとの関わりが上手になった。年下の子に優しく接することができるようになった。

進級にあたり心配に感ずていること

- ・自分の気持ちを優先してしまう
→まだまだ自分の気持ちを優先してしまう年齢ですが、できるだけ本人の気持ちを聞きながら、大人の願ひを伝えるようにしています。また、ただ「ダメ」と伝えるのではなく、きちんと理由を伝え、子どもが自ら気づけるように働きかけています。